

新春歩こう会

文 西本聖也・写真 大嶋啓靖

新年最初のイベントといえば、新春歩こう会。1月4日（日）、積雪や凍結の心配もありましたが、無事開催できました。

とても寒い早朝からの開催にも関わらず、集合時間になると、防寒対策バッチリでたくさんの方が集まってくれました。新年の挨拶や久しぶりの再会など、毎年いい場になっています。

開会の挨拶もおわり、まず最初は、怪我をしないように準備運動から。ラジオ体操で体を温めます。しかし、みなさんが知っているラジオ体操のかけ声とは少し違います。「へば、ラジオ体操ばやってくべしー。みんな、けっばってー」と、津軽弁のかけ声で楽しくラジオ体操をしています。子供たちにもウケていました。

準備運動が終わると、役員の先導でウォーキングスタートです。皆さん各々のペースがあるので、最後尾にも役員がついています。平福体育館からスタートし、佐用川沿いを歩いていきます。川端風景も観ながら、楽しく歩けました。疲れた方は、途中にある橋を渡りショートカットをすることもできるので、安心して参加できます。

今年は、路面が少し凍結しているところもありましたが、皆さん無事ゴールできました。ゴールすると、参加賞を貰い解散になります。

毎年、家族で楽しく参加できるイベントです。来年も、たくさんの参加者をお待ちしています。



ひらふく庭あそび

文 松田航・写真 大嶋啓靖

1月17日（土）、2回目となる「ひらふく庭あそび」が開催されました。

第1回はKUMOTSUKIでLEDランタン「スカイランタン」を揚げるイベントでしたが、今回は提灯の光でおさよん等の絵が地面に映し出される「プロジェクション提灯」を手に、ライトアップされた川端土蔵群まで歩くナイトイベント。

会場となったKUMOTSUKIの庭園には竹灯籠が飾られ、DJのBGMが流れるなか、飲食店ブースではおでんや牛串カツなどの温かいメニューも用意され、寒さの中にもぬくもりを感じられる空間に。参加者はテントを巡ったりワークショップを楽しんだりしながら、日が暮れるのを待ちました。

17時30分過ぎ、鎧武者と町並みガイドの春名さんの先導で川端土蔵群へ出発。色とりどりに変化する提灯を手に、子どもたちは元気いっぱいに行進し、大人たちはそれを温かく見守ります。約15分の道のりを経て到着すると、ライトアップされた土蔵群に「すごくきれい」「昼間とは全然違う」といった感嘆の声が上がりました。提灯を手にした参加者が並び、歴史ある町並みにやさしい彩りを添える光景は、訪れた人々の心に残るひとときとなりました。

企画・立案のマリニさんは、「春名さんの街歩きが好評だったこと、プロジェクション提灯が子どもたちに人気だったことがうれしい。地域の方がいつも顔を出してくれるのも励みになります。コンパクト



なイベントですが、細く長く続けていけたら」と話しておられました。

冬の平福をあたたかく照らした「ひらふく庭あそび」。これからも地域にやさしい光を届けてくれることを期待しています。

モノクロ平福「年賀状活用」の試み

文 鈴木哲矢

— の冬、61枚の年賀状が送り出されました。いずれも「モノクロ平福」の中から許諾をいただいた写真三種を用いたものです。

— 昨年より進められてきた「モノクロ平福」プロジェクトでは、ご家庭で大切に保管されてきた写真をお預かりし、記録として保存する取り組みが重ねられてきました。その積み重ねを背景に、活用の一つのかたちとして年賀状制作が実現しました。私は制作・進行管理に携わり、かつての平福の風景が新年のあいさつとして再び人から人へ届けられる姿を思い描きました。小さな実践ではありますが、保存された記録が暮らしの中へ広がる具体例となりました。

わが家でも、息子が祖母へこの年賀状を送りました。その姿が、どこか誇らしげだったのが印象に残っています。



CLOSE (おもて面)



CLOSE (うらな面)

年賀はがきお届けパッケージ



OPEN (なか面)

「ひらふくカレンダー」をご存じですか？

文 大嶋啓晴

「ひらふくカレンダー」という言葉が最初に登場したのは、2012年12月5日発行のセンターだより第19号でした。翌春（2013年）から平福地域づくり協議会の組織や規約、運用方法が大きく変わる——その説明の中で紹介されたのが、この「ひらふくカレンダー」です。

▶ 地域の予定が、あなたのスマホに届く

いま、皆さんはスケジュールをどう管理されていますか？「やっぱり手帳が一番」という方も多いと思います。それももちろん素敵です。でも、スマホのカレンダーも実はとても便利です。

一番のポイントは、“自動で共有できる”こと。たとえば私の場合、スマホに予定を入れると妻のスマホにも自動で表示されます。逆も同じです。「言うの忘れてた！」がなくなります。

これを地域でやろう、というのが「ひらふくカレンダー」です。

▶ 例えば、こんなことができます

たとえば——南新町の行事予定が南新町の関係者のスマホにも自動で表示される、消防団の予定が入ると団員のスマホに自動で表示される、など。

実際にいま、私が入力している南新町などの予定の他に、庵・下町・消防団・素盞鳴神社などの予定も関係者の方の手によって「ひらふくカレンダー」に入っています。おかげで私のスマホには、これら“自分で入れていない予定”がいくつも表示されてい

ます。各団体ごとに色分けされているので、自分の予定と混同することはありません。そして、地域や協議会の予定を決めるときには、これが多いに役に立つのです。

▶ 設定は難しくありません

「なんか難しそう…」と思われた方、ご安心ください。特にアンドロイドをお使いの方は、もともとGoogleカレンダーが入っています。表示するだけなら、操作はほんの数分です。ITに詳しくなくても大丈夫です。一度設定してしまえば、あとは普段どおり予定を入れるだけです。

▶ ちょっと興味が湧いた方へ

「ひらふくカレンダー」の予定を入力する側になるには、こちらで少し設定が必要です。

- ・入力する側になりたい
- ・とりあえず表示だけしてみたい
- ・スマホはあるけど自信がない

どんな方でも大歓迎です。興味のある方は大嶋まで、お気軽にお声がけください。“ちょっと便利”が、きっと日常を少し楽にしてくれます。

「縮充のまちづくり」に参加して

文 井平ひろみ・写真 大嶋啓晴

2月14日に地域福祉センターで行われた佐用町出前講座「縮充のまちづくり」に参加してきました。佐用町企画防災課の方が来て下さり、前半は縮充の説明や佐用町が考える縮充の町づくりについてお話いただきました*1。縮充とは「人口が減少するなかでも、充実した生活を送る」という意

味だそうです。分かりやすい冊子*2をいただき、2035年の縮充した佐用町の姿という図も描かれていて、人口が減っても今までのやり方を見直したり、工夫したり、協力しあって楽しく暮らすという事が佐用町の目指すところであるという事がよく分かりました。

後半は参加者でグループを作り、大きな円形の段ボール紙（＝えんたくん*3）で自己紹介したり、私が思うこれって縮充？というテーマで書き込み、伝え合いました*4。色々な世代の方と佐用町の未来について話し合う良い機会をいただきました。印象に残った話の中で企画防災課の方が都会に出た同級生達が集まれる場所を作りたいから佐用に残ったと話されていて、若い世代の方の佐用の仲間を思う気持ちに感動しました。

*3 えんたくん＝大きな円形のダンボールを参加者がひざの上に乗せて支えながら使う。



資料提供：佐用町 企画防災課 まちづくり企画室



防犯カメラと看板の設置状況

